私学祭 惜しくもベスト8を逸す

平成19年度私学祭バスケットボール大会が、緑スポーツセンター他を会場に7月14日から行われた。

本校は一回戦を星城高校相手に121対17の大勝。3年生を温存し、新チーム主体で臨んだ試合であったが、全く相手を寄せ付けなかった。

16日の二回戦は、強豪名古屋高校。立ち上がりから、ファウルの連発で波に乗れず、第一クォーターは18対22。第二クォーター早々に同点に追いついたが、せっかくもらったフリースローがなかなか入らず、逆転しきれない。前半は35対37で折り返した。

第三クォーターも、離され、そして詰める展開で61対65。

勝負は第四クォーターへもつれ込んだ。逆転できるチャンスはあったのだが、シュートミス、リバウンドがなかなか取れない状態が続き、残り1分26秒で77対80まで詰めるのが精一杯であった。試合は77対82で、悔いの残る敗戦となった。

8月上旬の尾張大会へ向けて、もう一度、闘争心溢れるチームへ変貌してもらいたい。

壮行会

7月20日、本校体育館で行われた一学期終業式に続き、生徒会主催の部活動壮行会が開かれた。

3年2組北爪沙織さんと2年3組伊藤政臣くんの司会で始まった壮行会では、夏休みに大会を迎える運動部・文化部の、計18クラブ主将から熱い抱負が語られた。

大会は、21日から始まる陸上競技愛知県選手権を皮切りに、野球部の夏の甲子園愛知県予選、柔道部のインターハイ全国大会、各部の夏期尾張大会など、ほとんど毎週にわたって熱戦が繰り広げられる。

金鷲旗

高校柔道大会

金鷲旗・国際大会に

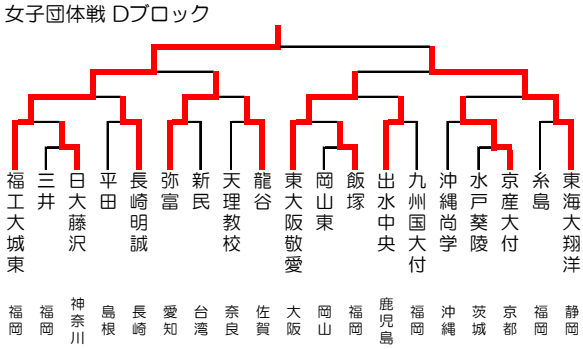
平成19年度金鷲旗高校柔道大会(全国最大規模の抜き勝負)が21日、開幕。金鷲旗の男女合同開会式を皮切りに、福岡市博多区のマリンメッセ福岡で熱戦を繰り広げられた。

今大会は、西日本新聞創刊130周年を記念して国際大会に。韓国、中国、台湾から9チームが参戦。伝統の大旗を目指し、今年は史上最多の男子360校と女子154校が出場。

開会式では、前年度優勝、男子の国士舘(東京)と女子の小杉(富山)が優勝旗を返還。国士舘の主将が「日ごろの練習の成果を十二分に発揮し、正々堂々競技することを誓います」と力強く選手宣誓。

1回戦は、女子が22日午前8時から、男子は同日午後1時50分から開始。

女子団体戦 Dブロック



女子団体 3回戦突破し 全国ベスト32

男子 健闘も一歩及ばず

初戦から台湾のチームとあたる。大将の西部まで引きずり出されてしまう。まず西部の相手は副将。落ち着いて得意の寝技で勝ち抜き、大将をも破り勝ち上がった。

3回戦の龍谷は、先鋒と次鋒が引き分け、中堅の堀が二人抜き。その後、相手の大将に堀と東が破れるが、西部が抑え込んでチームを勝利に導いた。

4回戦の福工大城東は、先鋒の若松が引き分け、高木が堀につなぐが、東が城東のエース山崎に取られ、粘る西部も止められず、涙をのんだ。

2回戦

弥富				新民
先鋒 若松	●	×○	林	先鋒
次鋒 中山	×	●	ウェン	次鋒
中堅 堀	○●	×○	ホン	中堅
副将 東	×	●	チェアン	副将
大将 西部	○○	●	チェン	大将

3回戦

弥富				龍谷
先鋒 若松	×	×	野口	先鋒
次鋒 中山	×	×	今薗	次鋒
中堅 堀	○○●	●	永石	中堅
副将 東	●	●	唐島	副将
大将 西部	○	●○○	吉次	大将

4回戦

福工大城東				弥富
先鋒 菊池	×	×	若松	先鋒
次鋒 末広沙	●	×○	高木	次鋒
中堅 木下	×	×	堀	中堅
副将 末広愛	×	●	東	副将
大将 山崎	○○	●	西部	大将

1回戦

弥富				明石清水
先鋒 山本	×	×	山渕	先鋒
次鋒 岩下	○×	●	山根	次鋒
中堅 水野	○×	×	伊集	中堅
副将 山田		●		副将
大将 榊原		×	高月	大将

2回戦

前橋育英				弥富
先鋒 牧	○	●	先鋒	山本
次鋒 新井	○●	×	次鋒	岩下
中堅 川口	●	●	中堅	水野
副将 室田	○○	●○○	副将	山田
大将 早野		●	大将	榊原